

◆ 今週のコメント

- 新型コロナウイルス感染症の報告が11,800例あり、本年の累積報告数は28,662例になりました。本感染症の最新の動向及び詳細については下記URLをご参照ください。
○新型コロナウイルス感染症 最新の動向
<https://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000268303.html>
- アメーバ赤痢(腸管アメーバ症)の報告が1例(50歳代男性)(第3週追加報告分)ありました。本年の初めての報告です。
- 侵襲性肺炎球菌感染症の報告が2例(70歳代男性及び80歳代男性)(第4週追加報告分含む)ありました。本年の累積報告数は4例になりました。
京都市では、「高齢者肺炎球菌ワクチン」を定期予防接種として実施しています。詳しい情報については、下記URLを御参照ください。
○高齢者肺炎球菌ワクチンの定期の予防接種について(医療衛生企画課ホームページ)
<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000171591.html>
- 梅毒の報告が5例(20歳代男性, 30歳代男性, 40歳代男性, 20歳代女性及び30歳代女性)(第3週追加報告分含む)ありました。感染経路は不明1例を除くといずれも性的接触です。本年の累積報告数は8例になりました。
- インフルエンザは、市内69の定点医療機関からの報告はありませんでした。今シーズンの累積報告数はわずか3例です。全国でも報告数は極めて少なく(今週は定点医療機関数約5,000から41例の報告)、現在のところ流行の兆候はありません。
京都市のインフルエンザの発生状況は下記のホームページをご参照ください。
○京都市のインフルエンザの発生状況(衛生環境研究所)
<https://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000102856.html>

◆ 今週のトピックス: <新型コロナウイルス感染症>

今週、京都市では新型コロナウイルス感染症の検査陽性者が11,800例報告されました。本年の累計陽性者数は28,662例となり、わずか1箇月余りで前年の年間陽性者数の21,279例を上回りました。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

(性別, 年齢, 症状, 感染地域※, 感染経路※の順に掲載。ただし, 結核は除く。)

- 二類: 結核 2例(肺結核 1例, その他結核 1例, 潜在性結核感染者 なし)うち喀痰塗抹陽性 なし
【1月以降の累積報告数 21例(肺結核 6例, その他結核 10例, 潜在性結核感染者 5例)うち喀痰塗抹陽性 なし】
- 新型コロナウイルス感染症 11,800例【1月以降の累積報告数28,662例】
- 五類: アメーバ赤痢 1例【1月以降の累積報告数 1例】
- 五類: 侵襲性肺炎球菌感染症 2例【1月以降の累積報告数 4例】
- 五類: 梅毒 5例【1月以降の累積報告数 8例】

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点69, 小児科定点43, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	0.00	0
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	3.12	134
	② A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.16	7
	③ 突発性発しん	0.09	4
	④ 咽頭結膜熱	0.05	2
	④ 手足口病	0.05	2
眼科	流行性角結膜炎	0.00	0

【次ページ以降の主な内容】

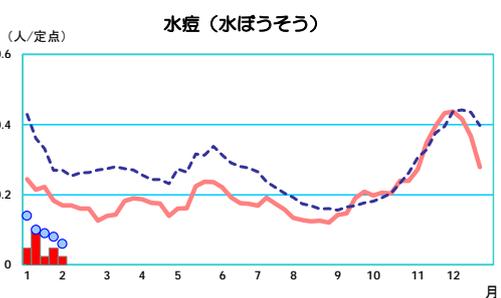
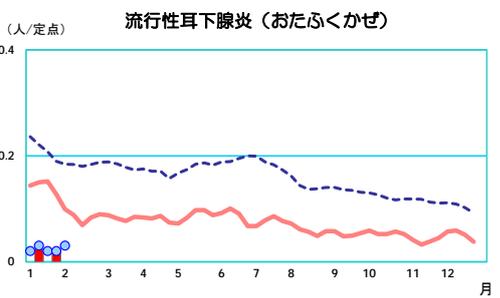
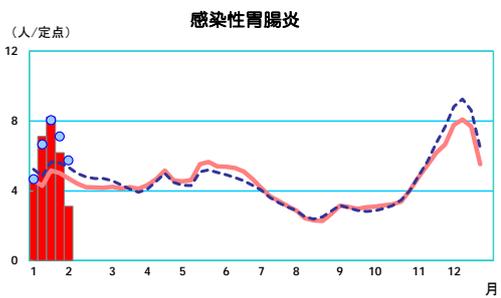
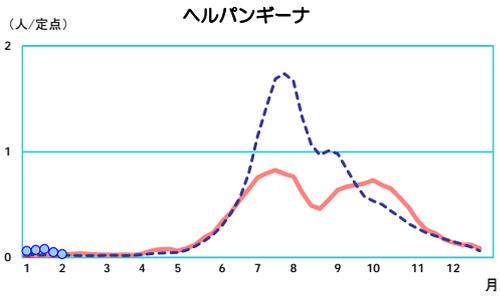
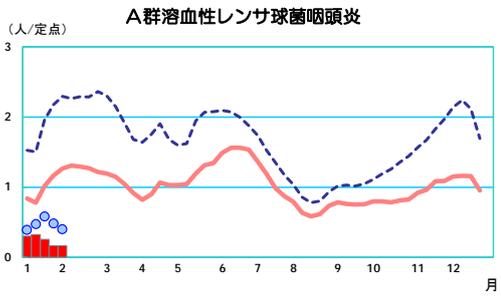
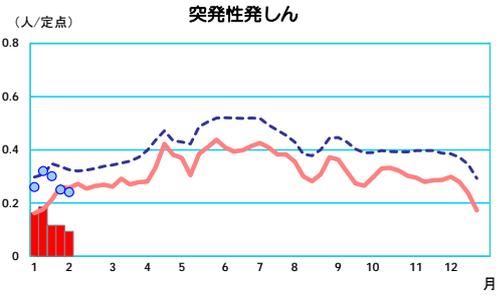
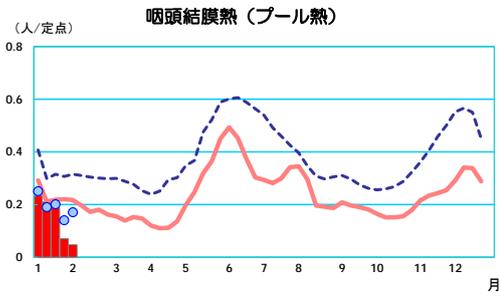
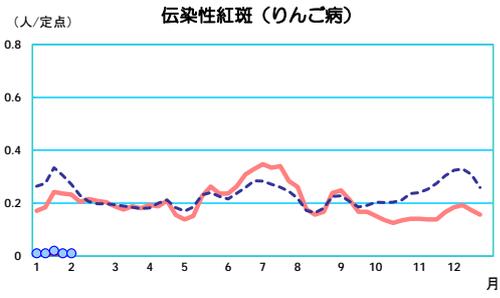
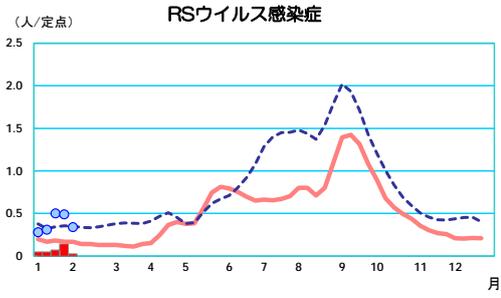
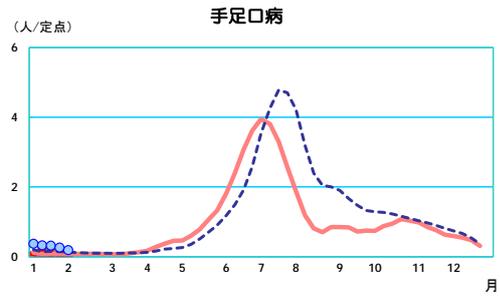
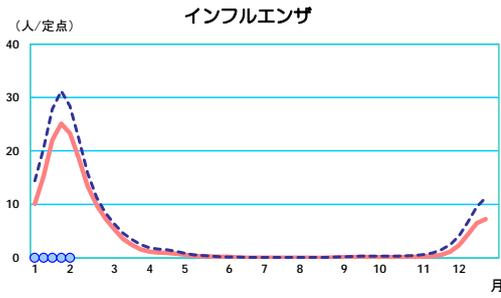
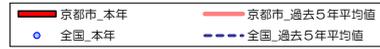
発生状況の概況グラフ / 発生状況地図 / 今週のトピックス: <新型コロナウイルス感染症>
付表(疾病, 行政区別報告数 / 年齢階級, 疾病別報告数 / 週, 疾病別報告数)

(注) 京都市のデータは、2022年2月9日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。

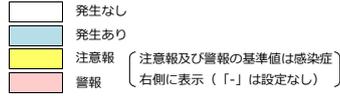
また、本情報での患者数は、届出医療機関所在地での集計で、患者の住所を示すものではありません。

* 感染地域及び感染経路については推定を含みます。

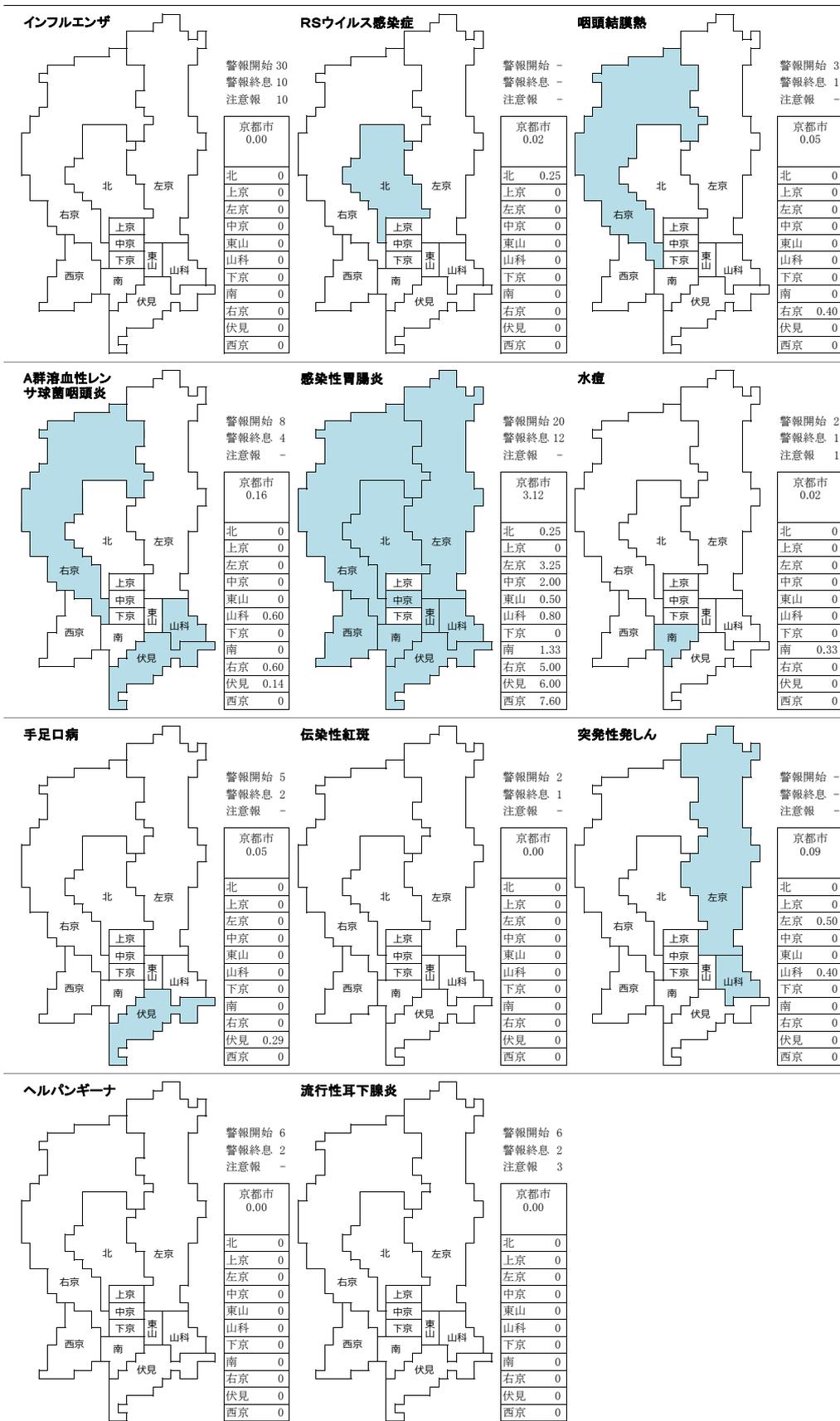
インフルエンザ[※]及び小児感染症の疾病別推移グラフ（2022年）



インフルエンザ及び小児感染症の発生状況地図【2022年第5週】



定点医療機関の所在地に基づいた集計結果となっています。
したがって、定点当たり報告数は医療機関の立地条件や
規模の大小の影響を受ける場合がありますので、ご注意ください。



第5週(1月31日～2月6日)トピックス: <新型コロナウイルス感染症>

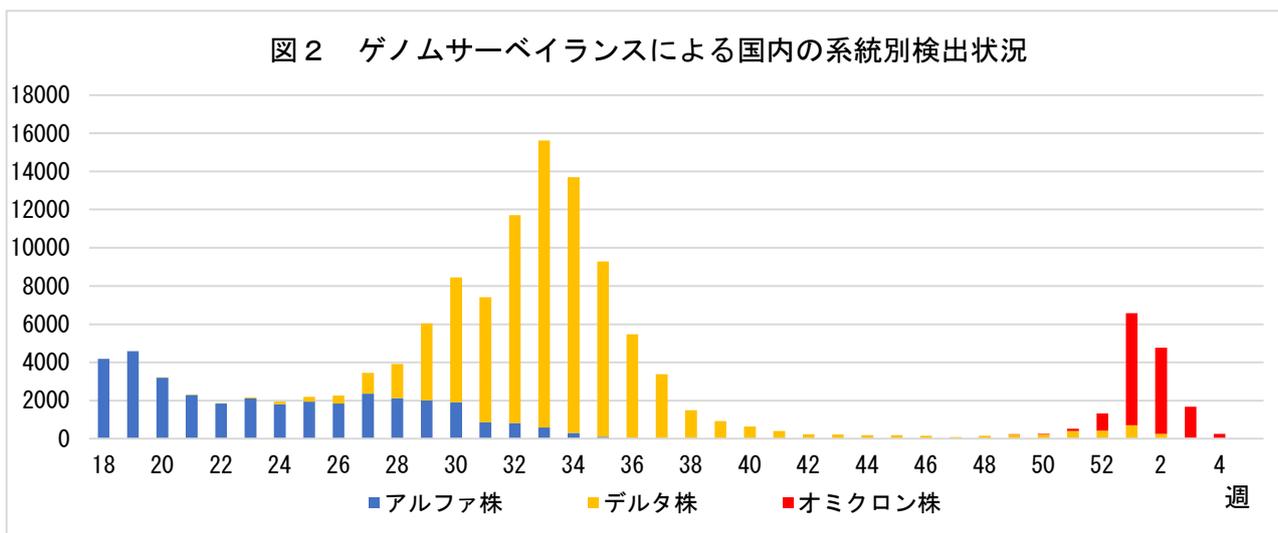
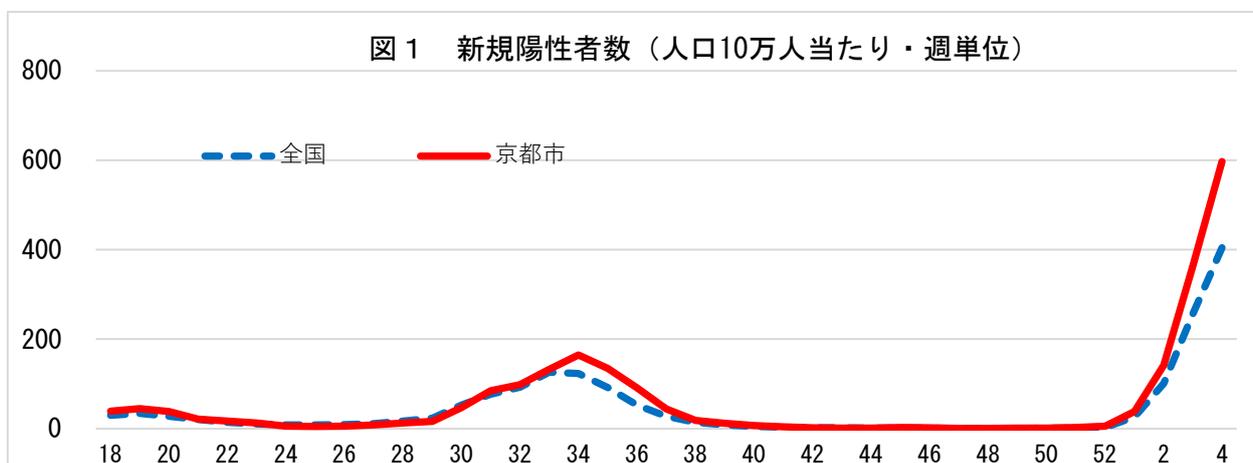
2022年第5週、京都市では新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の検査陽性者(以下、陽性者)が11,800例報告されました。本年の累計陽性者数は28,662例となり、わずか1箇月余りで前年の年間陽性者数の21,279例を上回りました。このような状況を踏まえ、令和4年1月27日から京都府に「まん延防止等重点措置」が適用されています。

全国及び本市の2021年5月(第18週)以降の人口10万人当たり新規陽性者数(週単位)の推移を見ると、第18週から第26週にかけての第4波、第27週から第39週の第5波では本市は全国とほぼ同数から若干上回って推移しています。一方、昨年末から現在にかけての第6波では本市、全国共に第5波のピークを大きく上回って増加していますが、新規陽性者数は本市が全国に比べて約1.5倍多く、本市の感染拡大速度がより急激であることがわかります(図1)。

流行の波が繰り返される原因には、新型コロナウイルスの変異株の出現があります。図1と国立感染症研究所がとりまとめた新型コロナウイルスゲノムサーベイランスによる国内の系統別検出状況(図2)を合わせて見比べると、第4波はアルファ株が優勢でしたが、デルタ株の出現とともに第5波が始まり、ピークではほぼデルタ株に置き換わっています。現在の第6波では第5波が収束し、患者数が極めて少なかった状況にオミクロン株が侵入したことに加え、オミクロン株がこれまでの株に比べて感染力が非常に強い特徴を持っていることにより、流行が急拡大したものと考えられます(図1, 図2)。さらに、オミクロン株にはBA.1～BA.3の3つの亜型の存在が確認されています。現状国内におけるオミクロン株はBA.1が主流ですが、海外の一部地域で感染が拡大しているBA.2も空港検疫やわずかながら国内でも検出されています。BA.2はBA.1よりもさらに感染性が高いことが示されており、第6波が長引く可能性や、第7波が到来する可能性があるため、今後も監視を継続する必要があります。

オミクロン株においても基本的な感染防止策は有効であるため、正しいマスクの正しい着用、こまめな手洗い、外出先での手指消毒、こまめな換気などの徹底を継続していくことが必要です。また、3密(密集, 密閉, 密接)が重なるところは最も感染リスクが高くなることに加えて、オミクロン株は感染力が強いため、一つの密であってもできるだけ避けましょう。

- 厚生労働省では、新型コロナウイルス感染症に関する情報を掲載しています。
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164708_00001.html
- 京都市では、新型コロナウイルス感染症の最新の動向を提供しています。
<https://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000268303.html>



T3201

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2022年第5週

疾病,行政区別報告数

2022年1月31日～2022年2月6日

データ入手日:2022年2月9日

	インフルエンザ(※1)	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	頭炎 A群溶血性レンサ球菌咽	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎(※2)	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎(※3)	感染性胃腸炎(※4)
男女合計																		
北	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-					
上京	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-					
左京	-	-	-	-	13	-	-	-	2	-	-	-	-					
中京	-	-	-	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東山	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-					
山科	-	-	-	3	4	-	-	-	2	-	-	-	-					
下京	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-					
南	-	-	-	-	4	1	-	-	-	-	-	-	-					
右京	-	-	2	3	25	-	-	-	-	-	-	-	-					
伏見	-	-	-	1	42	-	2	-	-	-	-	-	-					
西京	-	-	-	-	38	-	-	-	-	-	-	-	-					
京都市計	-	1	2	7	134	1	2	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-

疾病,行政区別定点当たり報告数

	インフルエンザ(※1)	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	頭炎 A群溶血性レンサ球菌咽	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎(※2)	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎(※3)	感染性胃腸炎(※4)
男女合計																		
北	-	0.25	-	-	0.25	-	-	-	-	-	-	-	-					
上京	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-					
左京	-	-	-	-	3.25	-	-	-	0.50	-	-	-	-					
中京	-	-	-	-	2.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東山	-	-	-	-	0.50	-	-	-	-	-	-	-	-					
山科	-	-	-	0.60	0.80	-	-	-	0.40	-	-	-	-					
下京	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-					
南	-	-	-	-	1.33	0.33	-	-	-	-	-	-	-					
右京	-	-	0.40	0.60	5.00	-	-	-	-	-	-	-	-					
伏見	-	-	-	0.14	6.00	-	0.29	-	-	-	-	-	-					
西京	-	-	-	-	7.60	-	-	-	-	-	-	-	-					
京都市計	-	0.02	0.05	0.16	3.12	0.02	0.05	-	0.09	-	-	-	-	-	-	-	-	-

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2022年第5週

年齢階級, 疾病別報告数

2022年1月31日～2022年2月6日

データ入手日:2022年2月9日

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳-	80歳以上	
男女合計	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上		
	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳以上							
	年齢4	総数	0歳	1歳-	5歳-	10歳-	15歳-	20歳-	25歳-	30歳-	35歳-	40歳-	45歳-	50歳-	55歳-	60歳-	65歳-	70歳以上					
インフルエンザ(※1)	年齢1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
RSウイルス感染症	年齢3	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
咽頭結膜熱		2	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		7	-	-	1	-	1	-	1	-	-	-	-	1	-	3	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎		134	2	10	22	22	13	12	7	4	6	7	2	6	2	19	-	-	-	-	-	-	-
水痘		1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
手足口病		2	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発しん		4	-	2	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	年齢2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
流行性角結膜炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
細菌性髄膜炎(※2)	年齢4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
無菌性髄膜炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
マイコプラズマ肺炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
クラミジア肺炎(※3)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
感染性胃腸炎(※4)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

年齢階級, 疾病別定点当り報告数

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳-	80歳以上
男女合計	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上	
	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳以上						
	年齢4	総数	0歳	1歳-	5歳-	10歳-	15歳-	20歳-	25歳-	30歳-	35歳-	40歳-	45歳-	50歳-	55歳-	60歳-	65歳-	70歳以上				
インフルエンザ(※1)	年齢1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症	年齢3	0.02	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱		0.05	-	0.02	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.16	-	-	0.02	-	0.02	-	0.02	-	-	-	-	0.02	-	0.07	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎		3.12	0.05	0.23	0.51	0.51	0.30	0.28	0.16	0.09	0.14	0.16	0.05	0.14	0.05	0.44	-	-	-	-	-	-
水痘		0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-
手足口病		0.05	-	0.02	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発しん		0.09	-	0.05	0.02	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	年齢2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
流行性角結膜炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
細菌性髄膜炎(※2)	年齢4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
無菌性髄膜炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
マイコプラズマ肺炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
クラミジア肺炎(※3)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
感染性胃腸炎(※4)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

T3203

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2022年第5週

週, 疾病別報告数

データ入手日:2022年2月9日

京都市 男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ ※1)	-	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症	4	2	2	3	6	1
咽頭結膜熱	4	10	9	8	3	2
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	5	13	14	11	7	7
感染性胃腸炎	176	206	306	354	266	134
水痘	6	2	4	1	2	1
手足口病	24	6	12	10	9	2
伝染性紅斑	-	-	-	1	-	-
突発性発しん	5	7	8	5	5	4
ヘルパンギーナ	9	1	1	-	1	-
流行性耳下腺炎	2	-	1	-	1	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	2	2	-	1	-	-
細菌性髄膜炎 ※2)	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 ※3)	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 ※4)	-	-	-	-	-	-
合計	237	249	357	394	300	151

週, 疾病別定点当たり報告数

京都市 男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ ※1)	-	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症	0.09	0.05	0.05	0.07	0.14	0.02
咽頭結膜熱	0.09	0.23	0.21	0.19	0.07	0.05
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.12	0.30	0.33	0.26	0.16	0.16
感染性胃腸炎	4.09	4.79	7.12	8.23	6.19	3.12
水痘	0.14	0.05	0.09	0.02	0.05	0.02
手足口病	0.56	0.14	0.28	0.23	0.21	0.05
伝染性紅斑	-	-	-	0.02	-	-
突発性発しん	0.12	0.16	0.19	0.12	0.12	0.09
ヘルパンギーナ	0.21	0.02	0.02	-	0.02	-
流行性耳下腺炎	0.05	-	0.02	-	0.02	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	0.20	0.20	-	0.10	-	-
細菌性髄膜炎 ※2)	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 ※3)	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 ※4)	-	-	-	-	-	-
合計	5.67	5.94	8.30	9.24	6.98	3.51

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。